古典を読むべき理由：リンディ効果

「古典を読まんかい！」と学校の先生やお年を召された方がおっしゃるのを聞いた事はありませんか？

ただ、「どうして、古典を読んだ方が良いのですか？」と聞き返しても「古典と言う素晴らしい書物を読むのに理由があるかい！」と言うような、話にならない返答を受けた事がある方もいらっしゃるのではないでしょうか？

古典を読むべき理由、それはリンディ効果にあります。

リンディ効果とは、時間が経てば経つほど、その物事の寿命が長くなると言う意味で、古くから使われている物で今も同じように使われている物は、これからも同じように使われる可能性が高いと言うわけです。

と言う事で、古典と言う書物は、何十年、何百年と言う時を経ても尚、読まれている書物であり、時代を超えても何かしら価値のある事が書かれていると言うわけなのです。

しかし、昨日今日のベストセラー本は時間の経過と言う試験にまだ合格していない状態で、一年後には誰も読んでない本になっている可能性があるので、古典を読んだ方がROI、あなたが投資した時間に対する効果が高い

可能性が高いわけです。

そして例えば、人生であったり思考方法と言うような時代を超えても差がさほど無いと言えるような分野では、何百年前に執筆された典型的な古典を読むのが良いでしょうし、プログラミングのような百年の歴史の無い学問でも、出来るだけ古くて尚、多くの人に読まれている本を選ぶべきと言う事なのです。

「時は残酷」とは良く言ったもので、読むに値しない本は無残にも消えて行きますが、読むに値する本と言うのは時を超えて、存在し続けるのです。

ミーハーに、今日明日のベストセラーを読んで己に酔いしれるのか？それとも、あなたの大切な時間に対する費用対効果がある可能性が高い古典を読むのか、あなたはどちらを選びますか？